

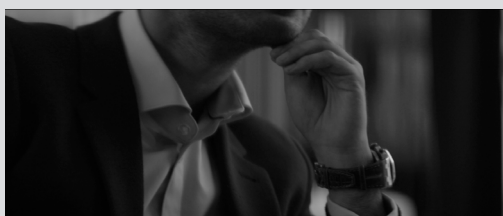
『Tinder詐欺師：恋愛は大金を生む』

監督：フェリシティ・モリス

2022年／イギリス／114分

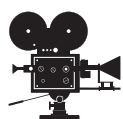


公式サイト



Netflix 映画

『Tinder詐欺師：恋愛は大金を生む』
独占配信



社会を旅する シネマ

きっと もっと 近くなる
きっと もっと 知りたくなる

タイトルの通り、本作は世界的なマッチングアプリ Tinder を通じて女性たちから大金を騙しとっていたひとりの詐欺師が逮捕されるまでを、被害者女性たちや重要な役割を果たした新聞社の記者たちの証言で「再現」したドキュメンタリーだ。

ロンドン在住のセシリーは Tinder 歴7年、「いつか王子様が」と心の奥で思うところもあり、1,024人もの男性とマッチしている。そんな彼女がある日マッチしたのがサイモンだった。SNS アカウントを覗くと、裕福な様子が伝わってくる。自分と違う世界に生きる彼に惹かれ、誘われるままに会うことに。待ち合わせ場所は高級ホテル。お茶をしながら身の上話を聞くと、父親から継いだ世界的ダイヤモンド会社の CEO だという。会社名を調べると実在する。そして彼は別れ際にこうやってきた。「もっと君のことを知りたい。次の出張先のブルガリアに自家用機で一緒に行かないか」。人生は一度きり！とセシリーは誘いに乗り、運転手つき高級車で送迎されて自家用機でブルガリアへ飛んだのだった。

一気に心理的にも身体的にも近づいた二人は、その後「恋人」になる。メッセージも電話もまめにしてくれ、写真や動画も頻繁に送ってくれる彼。世界のあちこちを飛び回っていて、写真も豪勢な暮らしぶりのものばかり。これでは疑う余地がない。だが実は彼は同時に複数人からお金を騙して借り、自転車操業的に使うポンジスキームという手法を

マッチングアプリに潜む 愛情搾取の詐欺

アーヤ藍

とっていた。騙した額は総額10億円以上。だから羽振り良く暮らせていたのだ。

華やかなデートやプレゼントで“愛情表現”をたっぷり受けたセシリーも、やがてサイモンから「巨額のダイヤモンドの取引で安全が脅かされている」から「足がつかない」ように彼女名義のカードを発行してほしいと言われ、詐欺の穴に陥っていく……。

サイモンの手口は巧妙だ。最初はどこまでも甘やかす。結婚しよう、君と家族をもちたい、など女性が喜ぶ言葉をささやき、一緒に住む家まで探させる。贈り物も欠かさない。愛情を信じ込ませた上でお金を騙し取る。詐欺に気づくと今度は、お前の個人情報把握しているんだぞと脅迫する。性的搾取の手口ととても似ていないだろうか(ちなみに被害者女性たちがメディアで告発したとき、女性たちを「バカだから」「強欲だから」と責めるコメントが多かったのも、同じだ)。

映画の後半は女性たちの“快進撃”があるのが救いだ。ただモヤモヤが残るのは、サイモンは逮捕後、15カ月の懲役を課されたのみで、再び豪勢な暮らしに戻ったらしいことだ。10代の頃から詐欺だけで生きてきた彼は別の道を自分ではつくりたくないのかもしれない。余談だが、インターネット時代の「騙し」の怖さを深掘りするのには、Netflix オリジナル『スイートボビー：なりすましという名の悪夢』も合わせて観るのがお薦めだ。



アーヤあい：映画探検家。慶應大学卒。在学中に訪れたシリアが帰国直後に内戦状態になったことが契機で、社会問題に関わる映画の配給宣伝を行うユナイテッドピープル(株)に入社。取締役副社長も務める。現在は独立して映画イベントの企画運営や記事執筆等を行う。編著書に『世界を配給する人びと』(春眠舎)。

